

6月15日（火）

昼過ぎ、黒い雲が空を覆ってきました。ひと雨来るぞと思い、窓を閉めました。パラパラっときましたが雨が上がつて、窓を閉めた分、部屋の中が暑くなりました。そのあと、少し強く降りましたが、涼しくなるほどの降り方ではありません。しかし、県内の中部や東部を中心に警報が発令されたようです。

もう35年も前の夏休みのある日、水泳クラブの指導をしていると、金剛山から真っ黒な雲が湧いてきました。異常に真っ黒なので、すぐに子どもたちをプールから上げて、着替えさせて帰宅させました。子どもたちは「こんなに晴れてるのに」とブツブツ言っていました。真っ黒な雲が広がりつつある様子を見ても、それは金剛山の上あたりだけ。青空が広がっている現状では、子どもたちが文句を言うのも無理はありません。しかし、異常な色と、徐々にこちらに広がって来る状況から、なにか危険なことが起きる不安が大きかったことは今も記憶に鮮明です。

その後、2時間もたたないうちに雨が降り出しました。雷鳴とどろき、強い降り方でした。そして驚いたのは、ビー玉ぐらいの大きな雹が大量に降ってきたのです。あとで分かったことですが、軒先などのポリカー製製の波板は無残にも穴が多数空いて壊れたり、畑の農作物の葉がちぎられたりして、あちこちで被害がありました。

あのときだけは、早めに対応しておいて良かったなあと、今も思う出来事です。